

## 令和7年度第2回花巻市博物館協議会 会議録

### 1 開催日時

令和8年2月17日（火） 午後1時30分～午後3時10分

### 2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

### 3 出席者

#### (1) 委員 8名

佐藤由紀男委員（会長）、伊藤晴二委員（会長職務代理者）、佐藤克宏委員、  
中島健次委員、鎌田愛子委員、門馬優子委員、大原皓二委員、伊藤金人委員

#### (2) 事務局（博物館） 5名

佐藤勝教育長、中村良幸館長、村田豊隆副館長、菊池宏美管理係長、  
小原伸博学芸係長

### 4 報告

開館時間等の見直しに関する報告について

### 5 議事

#### (1) 令和7年度事業の報告について

#### (2) 令和8年度事業の計画について

#### (3) 登録博物館の再登録手続きについて

### 6 議事録

#### (1) 開会（進行：村田豊隆副館長）

[協議会成立報告（委員10名中8名出席）]

#### (2) 挨拶

（佐藤勝教育長）

委員の皆様、今日は大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

お気づきになったと思いますが、大分外が明るくなりました。博物館は20年経つわけですが、作った当時はちょうど木陰に隠れるぐらいのいい景観だったのですけれども、20年も経つと、相当大きくなって、倒木や老木もだいぶ目立ってきましたので、伐採を進

めたところですが、国道から見えるようになりましたので、いろいろと関心を持っていただければありがたいというふうに思っております。

今年度の事業も職員中心に順調に推移しておりました。調査研究、収蔵、管理、展示、教育普及ということについて、あわせて市史の編さん室を置いていますので、資料収集も市民の方々のご協力いただいで進めているというところではあります。

今日は、本年度事業と来年度事業についてお諮りするほか、今までいわば実質休館日なしでやってきましたが、休館日を設けることによって、機械のメンテナンスなども計画的にできるようになりましたので、そういったところもお知らせできるかと思っております。

それから博物館法と文化芸術基本法が策定されてきて、これまでのこういった社会教育機能を持った施設について様々な文化施設的な機能を持つということで、双方の役割を備えるということで、もっともっと地域連携とか、多様なニーズに応えることが必要だという国の方針があって、これが2029年にまでに登録博物館も県の審査基準とか取扱要領によって再登録しなければならないというふうなことが義務付けられたということで、この再登録のことについてもご報告し、ご意見があればいただければというふうに思っております。

ぜひ花巻市博物館がさらに充実した活動を展開し、より市民の方に足を運んでいただき、関心を持っていただけるような博物館になりたいと思っておりますので、今日はどうぞ忌憚のないご意見をいただくようお願いいたします。

### (3) 報告

(村田豊隆副館長)

それでは次第に沿って進めさせていただきます。3の報告、開館時間等の見直しについて、担当よりご説明申し上げます。

[菊池宏美管理係長が資料1ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

まず一つは、開館時間については条例を変えたということですね。休館日についてはこれ元々条例が月曜日になっているので、条例を変えたわけではなくて、今日条例を守るようになったということですが、この資料に明記されていません。なぜそれを気にするかといいますと、ご承知のように条例は国で言えば法に相当するものですから、これは極めて不適切なところですので、市で月曜日休館にするということ、これは望ましいことだと私は考えております。

それと一つ要望があります。博物館条例と博物館の管理運営規則を委員だけにでも、次回の時にコピーを配ってください。

(村田豊隆副館長)

それでは今回の会議の結果、議事録をお送りしますので、その際に、4月から施行になります、今回改正されました条例とそれから規則について皆様にお送りさせていただきます。

#### (4) 議事

(村田豊隆副館長)

続きまして議事に移らせていただきます。議事につきましては花巻市博物館管理運営規則第9条第2項の規定によりまして佐藤由紀男会長に議長をお願いいたします。

よろしく願いいたします。

(佐藤由紀男会長)

円滑な議事の進行にご協力をいただきたいと思います。

議事に先立ちまして、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針第4項により委員会の公開または非公開の決定を委員に諮ることが定められております。

本協議会は第3項に定める公開しないことができる要件には該当しないことから当協議会を公開することで、よろしいですね。

(異議なしの声)

では異論ないということで公開ということで進めてまいります。

本日の議題は、一番最初が令和7年度事業の報告です。事務局から説明をお願いいたします。

[小原伸博学芸係長が資料2～10ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

それでは委員の皆様には、ご発言をお願いいたします。

(鎌田愛子委員)

3ページの資料収集活動の中の13番で美術工芸の「彫道日記等」について、県外からたくさん点数として寄贈されていますが、どういったものなのでしょうか。

もう一点ですが、8ページの修学旅行・校外学習等見学対応についてですが、花巻市おためし協力隊ツアーとありますが、どういう内容でやっているのかお聞きします。

(小原伸博学芸係長)

「彫道日記等」についてですけれども、こちらは花巻市出身の仏師に関わる資料となりまして、その方の日記などを寄贈いただきました。

(鎌田愛子委員)

作り方などでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

設計図のようなもので、仏像の下描きとかそういったもの、どこから依頼されたかなどが記された日記等になります。

そして8ページの修学旅行・校外学習等見学対応の花巻市おためし協力隊ツアーについてですが、こちらは地域おこし協力隊を募集するに当たりまして花巻市の歴史を知ってもらいたいという、定住推進課からの依頼を受けて、ツアーを組んでいただき、常設展示にて解説をしたものになります。

(鎌田愛子委員)

博物館だけのツアーでしょうか。

(小原学芸係長)

博物館だけではなく、花巻市内をまわるというものでした。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤金人委員)

10ページのその他ですが、樹木伐採とありますが、大体いくらぐらいで実施したのでしょうか。

(村田豊隆副館長)

まだ仕上げの作業が残っておりまして、最終的な金額確定はこれからなのですが、当初の契約額でいきますとおおむね1600万円ほどの予算で実施をいたしました。

伐採するために、童話村側から重機を入れて、博物館側の木を全部切るという作業でございました。入札を行って契約の上作業していただいたというような形でございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(中島健次委員)

市史編さん事業について、いつの完成を目指しているのか、今どういう状況なのかという

ことをお聞きします。

(小原伸博学芸係長)

市史編さん事業についてですけれども、いつ完成かということですが、現在のスケジュールでは、令和18年度の完成を目指して、全ての13冊刊行を目指しているところです。

現在は、専門部会9部会があるのですが、3月末までに立ち上げ、来年度からはそれぞれの専門部会の会議や調査などを進めていくという状況となっております。

(村田豊隆副館長)

補足ですが、令和18年度に完了するという目標でございましたけれども、今回の花巻市史は全部で13冊の本を発行する予定にしております、時代ごとの歴史と、美術工芸、民俗、自然といった特定のジャンルによる本と合わせて13冊というものでございます。一番早く出る冊子の予定が令和14年度、ここから順次1年に1冊ずつを発行していきまして、最終的には令和18年度に全ての13冊目が刊行し終わるというようなスケジュールで進めようというところがございます、そのための部会が今年度で3月までで全部立ち上がるというところがございます。

(中島健次委員)

わかりましたが、かなり遠い先の完成ということを実感しましたが、物量と内容的に勘案すれば、そのくらいの時間がかかるということなのですね。

(村田豊隆副館長)

やはり調査研究にかなりの時間を割くというところがございますので、実際に書き始めるまでに時間がかかるというところもご理解いただきたいところがございます。

なお、花巻市史の本編の発行に先駆けて、市内の子どもたちにも花巻の歴史を知っていたくという目的で、今、児童向け市史の編集を進めております。

こちらは小学校の高学年を対象にした内容ということでございまして、それを令和8年度、来年度1年かけて本を作って、令和9年度に市内の小学校の児童さんに配布するというところで今進めているところでもございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤金人委員)

資料収集活動ですけれども、今から大体50年ぐらい前、昭和40年の後半から50年にかけて、農家のかやぶき屋根がだんだんなくなった頃、骨董店が花巻市には5、6ヶ所あつ

たわけですが、骨董店からもたらされる情報が情報収集方法の1つになったのではないのかなと思います。今花巻市内に骨董店はない。骨董店からもたらされた情報というのも情報収集の大事な役割を果たしていたと思いますけれども、今後どういうふうに情報収集を考えているかお伺いします

(小原伸博学芸係長)

収集活動についてですけれども、骨董店はなくなっておまして、そこからの情報は入ってこないところではありますけれども、市民からこういった資料があるので見に来てくれないかなどという問い合わせがありますので、調査に伺って資料、寄贈の検討などをしてまいりたいと思っております。今後も市民の方に呼びかけまして、資料収集していきたいと思っております。

(伊藤金人委員)

大迫は空き家が増えてきた。そうすると、その所有者はもう、東京や他の地域に行ってしまう、空き家になってしまい、家の中にあるものも全ていらぬものとされてしまいますが、そこに本当は必要なものもあるかもしれない。そういうことが非常に懸念される場所です。そういう点も留意して、今後資料収集を進めてもらいたいと思います。

(佐藤勝教育長)

今年、何軒か家を解体するということで、花巻地区以外でしたが、そういうところにも学芸員が行って、中を調査して目録を作ったということは結構やっています。

それから市内でそういった古いものに興味のある人たちがインターネットで出るものが確認できるということで、特に東京のマーケットの中から花巻市の資料を見つけてもらって、紹介してもらったという事例もあります。

しかし、ずっとネットで検索しているわけにいかないんで、全部が全部把握できるかっていうとそうではないのですけれども、今できるとすればそういう方法で、前だと骨董店をよく他の学芸員も訪れて様々な情報収集していて、こういう物出たよってという話があったのですけれども、今なかなかその辺はちょっと厳しくなってきたというのが実際です。

(佐藤由紀男会長)

それに関しては、ここだけではなくて、多くの博物館が骨董店から物を買っていて、特に花巻市に関わる資料ですと、東京の骨董店にあれば買うということがあるかと思います。多くの博物館が、骨董店の情報をインターネットで検索しますが全部それは、検索できるわけではないし、それに関わっていたら職員1人取られてしまいますから、向こうから、骨董店から最初にこの博物館に買いませんかというふうに、声をかけていただけるような形を少し意識し、例えば少し買って見るなどしてみるものいいのかもしれないですね。

他にはいかがですか。

(門馬優子委員)

7ページの出前事業のところですが、児童生徒が博物館に足を運ぶということは、そんなにあることではなく敷居が高いのかもしれませんが、そういう意味でもこの出前授業っていうのは大いに効果を発揮していると思います。ただ、花巻市内の学校数から見ると非常に数は少ないのではないかなと思います。児童・生徒が自分の住んでいる郷土に愛着を持つ、いろんなことを知りたいと思う、そういった時に博物館に来ればいろんなことが学べると思うのですけれども、事前の策として出前授業の中でいろんなことを花巻の郷土のことを学ぶっていうのは大切な機会だと思います。

学校と博物館との連携という点から見ますと、先生たち学校の方から、こういう授業を受けたいのだというものが出てくるものなのですか。それとも博物館側の方から、こういう授業の予定がありますということを提示なさっているのか、その辺はどうなのでしょう。

(小原伸博学芸係長)

出前授業のメニューですけれども、博物館では、出前授業のメニューは学校に提供しております。こういった授業なら可能だというのはお示ししています。

あとは先生方と連携などとしていく中でこういった出前授業はできないかという相談も受けますので、そういったことで授業をつくることもあります。

ですので、一度相談していただければ対応していきたいと考えております。

(門馬優子委員)

あくまでも学校側の希望に沿ってこちらから提供するという形になっていると思いますけれども、学校の方では、郷土を知るというものはあるのでしょうか。

(佐藤克宏委員)

私からお答えいたします。小学校も中学校も郷土について学ぶという時間は設けております。本校の場合でいきますと、今年度、ちょうど出前授業をお願いしたのですが、年間通して学年でこんなテーマで学習したいというものと、非常によくマッチした内容を企画してくださっておって、それで合致したという部分もございます。

ただ今説明いただいたように、こちらからこんなお願いしたいという要望を出していくことも必要なのかなというふうに今考えているところです。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤晴二委員)

プラスになりますけども、学校と博物館でやっぱり連携というのは、大事なことでもあるし、私も地元の学校で、今年、それぞれの学校で文化祭の発表会の中に展示がありまして、出前授業の感想も含めた形でやって、すごく興味深く、子供たちはこんなふうに捉えたのかというのが参考になりました。博物館は素晴らしい展示や発表をなさっているので、子供たちもそれをどう捉えているか、子供たちが何を感じ、何を学んだかというあたりが、これはここの博物館の領域ではないかもしれませんが、いずれ学校の協力を求めて、そういった感想をネットでもいいし、掲示でもいいし、そういう形でできればいいかなというふうに思っておりますので検討をお願いします。

(中村良幸博物館館長)

大変ありがとうございました。

これにつきましては、昨日会議を行いました。博学連携で小学校と中学校の先生方、各学校から1名ずつ、全校から出していただき、先生方と協議しながら、以前は研修が中心でしたが、今は、展示物を見ていただき、その上で学習シートを修正していただく、出前授業を最初に見てもらい、これだったら子供たちがわかるかわからないかというようなことを聞いて、手直しをしていくようにしております。こういった学校との協力は多分、県内では花巻市博物館が一番やっているのかなという気がいたします。この間も盛岡大学の博物館学を教えている先生とお話したら、今度花巻市博物館の博学連携のことを学びたいというお話もありましたので、いづらか知られてはきているなという気がしますので、それをより密にしながら、これから進めていきたいと思っておりますのでよろしくお話ししたいと思っております。

(佐藤勝教育長)

市全体で見ると、博物館での出前もあるのですが、文化財課の方にも問い合わせがあり文化財課でも出前に行っています。

ただこのほかにも学校で地域、ふるさとについて勉強したいという方が視点として、環境であったり、例えば食べることであったり、あるいは自然に関する、防災に関する、結構レパトリーがあって限られた時間の中でやっているということで、そこら辺で一つ限界があるのかなと思ったり、それから宮沢賢治記念館でも宮沢賢治の世界セミナーという、すごい授業があるのですが、それも実は利用が少し減ってきていて、どんな理由があるかと考えてみると、先生方が異動すると、地域についてこういうサービスがあるとか、あるいは地域についてこういうことを知りたいということについて、なかなか周知したり意識したりができないということもありますので、こういったことをまず校長会議の中でもっともっとアピールしていかなければならないと思っております。

あるいは1時間という大きな時間ではなくて、10分20分のメニューどこでもいいと

思うのですが、そういった一つの営業というかサービスについても、開拓すべきことはまだまだあるかというふうに思っています。

学校では、相当地域の学習もやっておりますし、特に郷土芸能という点では、ほとんどの学校が一生懸命取り組んでおりますが、郷土芸能となると、時間的には相当必要になってきますのでなかなか手が回らないというのも実態であろうかと思えます。

そのような事情があるということをもっと知っていただければと思います。

(佐藤由紀男会長)

今のことにに関してですが、花巻市博物館でやれというのではないのですけれども、少なくとも連携にこの規模の博物館としては、よく取り組んでいる、極めて何て言いますか注目すべきだと思うのですけれども、もう一步進めているところだと、例えば授業で博物館が持っている実物資料を使っていただく、実物資料が提供できないときには、画像を提供するとか動画を提供するとか、博物館で民俗芸能の動画を提供するとか、それはオンラインのやり取りでできますのでそういったところまで一步進めている博物館が東北地方でもいくつか実際あります。

ただ、そういったところだと、それに専念する学芸員を1人置いていて、学校の先生から来ていただいて3年間それに専念してやっていただくとか、そうしたことに専念する学芸員を置いていて、その方を中心に行っていますので、学校等ともっと密に、特に学校に行っているところでもっと密に活動をしているところもあつたりしますが、人員増を伴うことですので、すぐにはできるとはいかないのですけれども、そうした授業で使う資料まで提供するというのも一つの方向性かなと思います。

他にはいかがですか。

(佐藤克宏委員)

8ページの修学旅行学習等今後の対応についての質問と意見です。

一つはこういった修学旅行に花巻市博物館を、というような周知活動は行われているのか、あるいは単独じゃなくて周辺施設とか、そういったところとタイアップして行われているのかということが質問1点目です。

それから2点目、県外の見学者さんがいらっしゃって嬉しい限りなのですが、もしわかるのであれば、どういった経緯で花巻市博物館にいらしてくださったのかという部分が質問2点目で、最後の意見ですけれども、やはり現在、市の交流人口を増やして、花巻市のファンをどんどん増やしていこうというような活動が大事になってきていると思いますが、そういった意味で花巻市博物館の果たす役割、あるいは周辺施設の社会施設が果たす役割が大きいような気がしますので、ぜひそういったところに期待したいと思っております。

(菊池宏美管理係長)

お答えいたします。問い合わせがありましたのは、修学旅行については、旅行会社を通じまして、いつ修学旅行で考えていますということでお問い合わせがありました。その際に、学芸員の解説を求めますか、どうしますかという打ち合わせの中で、今回は他の施設も回りたいということがあり、学芸員の解説は求められなかったので、こちらの修学旅行の見学対応には実績を載せておりませんが、見学いただいたところです。

二つ目についてですが、他の地域団体などの方々がどのように花巻市博物館にいらっしやっているのかということについて、今年の傾向で見ますと、一つは御城印というもの、花巻城と土沢城をこちらの博物館では販売をしているのですが、南部氏ゆかりの各お城に関する御城印を各地域で販売しているのですが、そちらを集める形で、IGR いわて銀河鉄道から事前にご相談がありまして、当館学芸員と一緒に企画するところから、どういった解説をしていって、最終的に博物館を見学に来ていただいとということ、現地の方にフィールドワークをしてきたということもございました。

これは、相手方からご提案をいただき、詳細については、こちらと一緒に企画して作り上げられた、いい企画だったのかなと思いますし、その他自治会などはやはり宮沢賢治記念館の周辺施設ということで、事前に下見に来ていただいた際に展示がとても良かったということで、そこで窓口受付の方でお問い合わせいただきまして、こういう団体なのだけれどもどういった解説をいただけますかというご質問をいただき、どちらの地域ですかとか、どういった年齢層ですかということで打ち合わせをさせていただくということもございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがですか。

では、私から、SNS に関することですね。去年1年間の岩手県の博物館で一番注目をされているのは、遠野の博物館が SNS のフォロワー数で都道府県市町村立博物館に第1位、全国で第4位ですね。5位が奈良の国立博物館で、それに続く都道府県市町村の博物館は8位に江戸東京博物館がある。その SNS によってフォロワー数が極めて多くて、実際入館者が増えている、コロナ禍以前よりも増えている、アンケートを取ると60%が SNS を見ていると、同じような特徴があります。

この博物館も SNS、Facebook をやっているわけですし、私も今までもずっと見せていただいていた。今までは月に1回とか短くても週に1回でしたけども、このところ毎日更新をされていて、私もフォロワーになりました。ほぼ毎日更新されていて、当然今やっている展示会のことも触れていますけども、それ以外に氷柱であるとか白鷺であるとか、何かいろいろ周辺の土地ですとか、花巻の歴史や文化までもうちょっと踏み込んで触れていたり、いろいろしていただいて、SNS が極めて大きな力を持っているということはこれ奈良の文化財研究所の調査が公開されていて、それで明確になっていますので、今せつかく1月になってそうやって初めていらっしやるわけですけども、もし1人でやっているとお大変

ですし、いろいろと配慮をしながら、どちらかというところXの方が見ている方が多いのかもしれないですけども、できるだけ長く続けてSNSの威力というのは大きいですから、思ったよりもそれで入館者が増えたり、ここを利用したり、いろんな形で利用してくれる方が増えていけばいいのかなというふうに思っています。感想に過ぎないですけども、よろしく願いいたします。

それでは、令和8年度の事業の計画について事務局から報告をお願いいたします。

[小原伸博学芸係長が資料11～13ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

それでは、令和8年度事業の計画につきましてご質問やご意見を委員の皆様からよろしくお願いいたします。

(門馬優子委員)

11ページ、テーマ展についてですが、実物を含む展示物を並べるというのは、もちろん大変結構ですけども、工芸に関しては、出来上がるまでの工程というものを今までの展示でもあったのかもしれませんが、地元で根付いたその工芸が、どのような工程を経てものになったか、そういうものが目で見て示せるような展示をしていただきたいと思います。

(小原伸博学芸係長)

工程などはぜひ紹介したいと思いますので検討してまいりたいと思います。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(大原皓二委員)

博物館で収蔵されております資料の保存、保管の状況をバックヤードというのでしょうか、ぜひ一度見せていただきたいという希望を申し上げます。

(村田豊隆副館長)

ご意見ありがとうございます。館によっては事業・イベントという形で一般の方々にも公開をし、バックヤードを見学していただくというような企画をしている館もあるようです。当博物館ではまだそういった部分はまだ検討できておりませんが、やはり博物館の運営をご指導いただいている皆様に、ぜひ一度、博物館の外観だけではなく、中の

状況というところを見ていただくことは必要なことというふうに思いますので、こちらにつきましては実施に向けて検討させていただきたいと思います。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(佐藤克宏委員)

13ページその他、第74回の全国博物館大会岩手大会について、当館といたしまして何かそれに関するイベントであるとか関わりというものがありませんでしたら、お教え願いたいです。

(村田豊隆副館長)

全国博物館大会岩手大会では、資料に記載の通り11月に開催されます。当館の関わりとしまして、一つは博物館大会の全体の企画について県内の博物館から、実行委員ということで、館長が名を連ねております。

それから実際の企画を行うチームというものがございまして、そちらには当館の学芸員が参画をするということで今回大会に関わっていくということになります。

それから大会期間中に、全国から関係者の方々が岩手の方に訪れるということもございまして、その関係の方々については、まだこれは検討段階ではありますが、館内の施設を訪れた際には無料入館できるような仕組みを取ってほしいというようなお話もございまして、そういった部分での対応というところでは、今後出てくるかと思えます。そういった関わりということで今予定しているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか？

それでは、私から、多言語対応のことで前回発言させていただいて、今展示室に実証実験中ということでQRコードがついています。委員の皆さんもぜひ確認していただきたいと思うのですが、二次元コードで読み取れば英文で出て参りますので、これは極めて便利です。今私が関係する中でも北上でもここでもそうですし、盛岡市遺跡の学び館でもそれぞれ多言語対応をそれぞれ違う方法で始めていますけれども、二次元コードのこうした活動っていうのは、極めて簡単にできる部分がありますけれども、この間少しお話させていただいてさせていただいたときにも、今日もそうだったのでやっぱりコマーシャルが出てきてしまうので、例えば多賀城市の埋蔵文化財調査センターや高島市の博物館にはコマーシャルが出てこなかったのを参考に見てください。今後も進めて、展示替えを含めて、いろんなこと方法で検討をしていただければというふうに考えているところです。

あと、市史関係ですけども、今ちょうど展示がされていますが、今までのこの花巻地域の

合併以前の動きですとか、最近収集したもので寄贈されたもの、寄贈方針、展示方針、それ以外はこんな感じのものを市史で取り上げますよというような展示だと思えるのですけれども、花巻市史は博物館で市史編さんをやっていますから、毎年とはいきませんが、何年かに1回、特に新資料が出たときなどはですね、市史の宣伝、市民に市史が出るんだという情報提供ですとか、機運を盛り上げる意味でも、毎年ではなくて何年に1回ですねぜひ展示はやっていただきたいと思います。

それでは、次の議題 登録博物館の再登録手続きについて、事務局から報告をお願いいたします。

[菊池宏美管理係長が別紙1、別紙2について説明]

(佐藤由紀男会長)

事前に配布されておりますので、特に具体的な説明は抜きで皆様からご意見を伺いたいというふうに思います。

(意見なし)

私から意見を述べさせていただきます。

記載された内容であっても、審査を通ると思うのですけれども、せつかく時間はあるわけですから少し時間をかけて、まずこの博物館の目的をもう少し明確化し、もうちょっと具体的にこの地域のために独自に個性を持って何ができるかっていうのを少し考えていただいてそれから運営方針を決めていかないと、本当に今言ったようにどこでも同じような、運用方針になってしまって、書類は通るでしょうがせつかくですから少し時間をかけて来年1年ぐらいかけて設置目的について事務系の方、学芸員の方も含めて検討し、それに基づいて運営方針を決めて公開をする。歴史系の博物館、美術工芸の博物館の設置目的として何が共通するのか、既定の博物館の設置目的は何であるのか、そうしたことから、事務系の方、学芸員の方皆さんで少し議論をしていただいて少し揉んで、それからやるのが私は望ましいというふうに考えます。

(村田豊隆副館長)

ありがとうございます。今いただいたご意見、やはりじっくりと考えていく必要があるのだなというふうに改めて感じたところでございます。実際に登録までにはまだ時間がございますし、今日本当にたたき台という形で皆様にお示しをさせていただいたばかりということでございますので、皆さんにさらにご意見をいただく機会を設けて、より良い運営方針という形にしていきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導をいただきますようお願いをしたいと思います。

(佐藤由紀男会長)

以上をもちまして本日の議事を終了いたします。委員の皆様にはありがとうございました。以降は事務局に進行を戻します。

(5) その他

(村田豊隆副館長)

佐藤会長、大変ありがとうございました。

次第5 その他になります。皆様の方から何かございますか。

閉会にあたりまして、花巻市博物館館長の中村良幸からご挨拶を申し上げます。

(6) 閉会の挨拶

(中村良幸館長)

本日は、長時間ご協議いただきまして大変ありがとうございました。

大変有意義なご意見をたくさんいただきましたので、整理いたしまして今後の博物館の運営に活かしていきたいというふうに考えております。

今年は合併20周年ということで、特別に博物館としてはそれをうたっているわけではございませんけれども、市史の「次世代へ繋ぐ花巻市の歴史」とか花巻の工芸というような形で、花巻市全体のことを紹介していこうというふうに考えておりますし、私も講座で花巻市ってというのは、意外と合併してから知らないところがたくさんあるというふうによく聞いておりますので、その辺が説明できるように講座を持っていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様もよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから佐藤由紀男先生には、運営方針につきまして貴重なご意見いただきましてありがとうございました。じっくり考えて、いいものを作りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

(村田豊隆副館長)

以上をもちまして令和7年度第2回花巻市博物館協議会を閉会いたします。本日はお忙しいところどうもありがとうございました。